

VII

今後の進め方



本市の公共交通が目指す姿の実現に向け、計画期間において、本計画に基づく取り組みを進めていきます。また、目指す姿が実現できているかどうかを確認するための指標と目標値を設け、評価・検証を行います。

《達成状況の検証》

計画を進めるに当たっては、PDCA（Plan・Do・Check・Action）のサイクルによる継続的な取り組みを行い、必要に応じて適宜改善を図っていきます。取り組みの実施状況、目標の達成状況については、各年度および最終年度に確認、評価・検証し幸手市地域公共交通会議で報告します。また今後、本市の公共交通を取りまく地域や社会の情勢、交通手段に関する技術革新の動向、人々の意識・行動や嗜好・流行の変化によっては、計画内容の見直し・改善を行うことも必要となります。



- Plan : 計画・調整など
- Do : 取り組みの実行
- Check : 進捗状況の確認、評価・検証
- Action : 見直し・改善

(取り組みの進め方)

	令和6年度(2024年度) 4 7 10 1	令和7年度(2025年度) 4 7 10 1	令和8年度(2026年度) 4 7 10 1	令和9年度(2027年度) 4 7 10 1	令和10年度(2028年度) 4 7 10 1
Plan	次年度の計画・調整		次年度の計画・調整	次年度の計画・調整	次年度の計画・調整
Do	取組の実行				
Check		前年度の確認	前年度の確認	前年度の確認	前年度の確認 全体の評価・検証
Action		見直し・改善	見直し・改善	見直し・改善	見直し・改善

* 前年度の取り組み状況の確認、全体の評価・検証の結果は、幸手市地域公共交通会議で報告。

《評価指標と目標値》

本計画が「目指す姿」の実現に向けた「5つの方向性」に対し、達成状況を測るための“ものさし(目安)”として、評価指標と目標値を以下のように設定します。なお現況値については、令和5年度(2023年度)の基礎調査期間に入手可能な情報をもとに設定しました。新型コロナウイルス感染拡大後の外出行動状況など、計画期間中に大きな変化があった場合には目標値の見直しを行います。

方向性 1**将来にわたり、地域にふさわしい公共交通を持続します****●達成イメージ：市営の公共交通を、持続的に運行している。**

市営の公共交通を持続的に運行し、人口減少が進展する状況においても現況値と同等以上の運行経費を確保していることを指標とします。

・指標① 市営の公共交通（市内循環バスなど）の運行経費（市による投入額の確保）

現況値（令和4年度（2022年度））	目標値（令和10年度（2028年度））
38,410 千円／年	53,791 千円／年（現状以上）

・市内循環バスなどの費用の合計

●達成イメージ：市営の公共交通が、効率的に運営できている。

定期的な見直しなどによって運行・運営が効率的になり、市内循環バスの収支率が上がっていることを指標とします。

・指標② 市内循環バスの収支率

現況値（令和4年度（2022年度））	目標値（令和10年度（2028年度））
7.98%	9.20%（現状以上）

・市内循環バスの運行経費に対する運賃収入の割合

方向性 2**高齢化などを見据え、外出手段を確保し、便利にする調整・工夫をします****●達成イメージ：公共交通を利用した外出が増えている。**

市民などが日々の外出で公共交通を便利に使えるようになり、多くの人が公共交通を利用して外出していることを指標とします。

・指標③ 市内の公共交通（鉄道・バス・タクシー）の利用客数の合計

現況値（令和4年度（2022年度））	目標値（令和10年度（2028年度））
5,326 千人／年	5,400 千人／年（現状以上）

・市内循環バスの利用客数、幸手駅の乗降人員、朝日自動車の路線バスの輸送人員（市内を運行する路線）、市内タクシーの輸送人員の合計〔市資料、各運行事業者保有データ、タクシー協会資料による〕

なお、市内の公共交通のうち、地域公共交通確保維持改善事業の補助を活用する市内循環バス（令和4年度（2022年度）利用客数23千人）、朝日自動車（五霞町役場～幸手駅線）（令和4年度（2022年度）輸送人員50千人）については、それぞれ単独でも現状以上の利用客数を目指します。

（五霞町地域公共交通計画（令和9年度（2027年度）目標値）では、朝日自動車当該路線の輸送人員55千人を目指しています。）

方向性3

利用時のわかりやすさ、
やさしさを充実します

●達成イメージ：公共交通に満足している市民が増えている。

公共交通全体のわかりやすさ・やさしさが充実し、市内循環バスに対する市民の満足度が向上していることを指標とします。

・指標④ 市内循環バスの満足度

現況値（令和4年度（2022年度））	目標値（令和10年度（2028年度））
42%	50%以上

・市民アンケート（令和4年度（2022年度））による「満足」「やや満足」との回答の割合の計

方向性4

将来にわたって確保・維持していけるように、
公共交通を利用する意識の醸成を図ります

●達成イメージ：公共交通への意識の醸成を主旨とする取り組みが着実に行われている。

市民のクルマ利用の見直し、公共交通に対する意識の醸成を促す取り組み（モビリティ・マネジメント）が着実に行われていることを指標とします。

・指標⑤ 公共交通のことを考える機会を提供する会合・イベントなどの開催回数

現況値	目標値（令和10年度（2028年度））
—	4回以上/年

・市民の会合などの開催回数、地区・イベントへ出向いての広報活動の実施回数

●達成イメージ： 使える時には公共交通を使う外出スタイルが徐々に広がっている。

意識の醸成を促す取り組みにより、市内循環バスを全く使わない市民が減少していることを指標とします。

・指標⑥ 市内循環バスを利用しない市民の割合

現況値（令和4年度（2022年度））	目標値（令和10年度（2028年度））
92%	80%以下

・市民アンケート（令和4年度（2022年度））による「市内循環バスを利用しない」との回答の割合

方向性5

まちの賑わい創出に貢献する方策を
模索します

●達成イメージ： まちの賑わいに貢献する公共交通の取り組みが着実に行われている。

観光と公共交通が連携した取り組みが着実に行われていることを指標とします。

・指標⑦ 観光と公共交通が連携した企画の件数

現況値	目標値（令和10年度（2028年度））
2件/年	5件以上/年

・観光などの関係者と公共交通の運行事業者が連携したイベント・キャンペーン・企画の件数

《進捗管理》

計画全体の取り組みの進捗確認や結果の評価・検証を行う主体が必要であり、「幸手市地域公共交通会議」において行います。

《今後の取り組みのスケジュール》

取り組みごとの具体的な実施体制などについて調整・決定し、令和6年度(2024年度)以降の5年間で、具体的な実施内容や方法の検討、準備を行いながら取り組みを進めます。必要に応じて試行、実証運行を実施し、状況によっては計画の見直しも適宜行います。取り組みの進捗状況や、指標とした数値の経過を把握可能なものについて毎年確認を行い、最終的な目標の達成状況を令和10年度(2028年度)に検証します。

取り組み		計画期間（年度）				
		2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)	2028 (令和10)
1. 将来にわたり、地域にふさわしい公共交通を持続します						
1-1	公共交通の持続的な運行			継続		
1-2	運行形態の見直しによる持続的な運行		検討・見直し		実施	
1-3	日常的な利用客（固定客）の確保			継続		
1-4	持続的な運営のための方策の検討			継続		
2. 高齢化などを見据え、外出手段を確保し、便利にする調整・工夫をします						
2-1	市内の外出手段の効率的な確保		検討・見直し		実施	
2-2	市内のお出かけの利便性向上のための運行・運用方法の工夫			検討・実施		
2-3	市外へのお出かけの利便性向上のための運行・運用方法の工夫			継続		
2-4	福祉と連携した外出支援			継続		
3. 利用時のわかりやすさ、やさしさを充実します						
3-1	市の公共交通全体のわかりやすさの充実			検討・実施		
3-2	乗り場での案内の充実			検討・実施		
3-3	乗り継ぎ拠点での案内の充実			検討・実施		
3-4	乗り継ぎ拠点での待ち環境の充実			検討・実施		
3-5	人にも地球にもやさしい利用環境			検討・実施		
4. 将来にわたって確保・維持していけるように、公共交通を利用する意識の醸成を図ります						
4-1	市民への広報PR			継続		
4-2	地域が中心になって考える機会の提供			検討・実施		
4-3	市民が乗る機会・考える機会の提供			検討・実施		
4-4	運転免許証返納者への支援			継続		
5. まちの賑わい創出に貢献する方策を模索します						
5-1	イベント開催時の連携			継続		
5-2	観光オンシーズに公共交通が連携した企画などの検討			検討		
5-3	来訪者の利便性の充実			継続		

（取り組みの検証）

- 実施状況、把握可能な指標を、毎年チェック
- 最終年度に、すべての取り組み、全目標値の達成状況を検証

